

ココラボJOラジオ 2026年3月



サステナビリティと企業経営

ゲスト:内田裕子氏(経済ジャーナリスト)



「サステナビリティと企業経営」内田裕子氏



[第4回] サステナビリティ × イノベーション



サステナビリティは成長産業

—規制ではなく、投資の波—

欧州・米国・中国は、サステナビリティを国家成長戦略に組み込んでいる。
世界はすでに、「次の産業」をつくり始めている。

イノベーションとは何か？

—新結合という視点—

イノベーションとは、既存の要素を新しく組み合わせること。
社会課題は、まだ組み合わせられていない“素材”の宝庫である。

ヨーゼフ・シュンペーター 〈新結合〉

「既存の要素を新しい組み合わせによって結び直すこと」

クレイトン・クリステンセン

「破壊的イノベーション理論」

なぜ社会課題はビジネスになるのか —困っている人が、必ずいる—

社会課題には、明確な不満と未充足ニーズ(潜在需要)がある。
高齢者の孤立、障害児支援の不足、子育ての負担、地域交通の不足、疲弊する介護現場、
外国人労働者の人権問題、気候災害、食品ロス、資源循環の遅れ…等々

さらに…サステナビリティ領域は、
公的サービスと民間サービスの“境界領域”にあり、制度の隙間や不完全さが存在。
その隙間が新しいビジネスの入口になる。

中小企業の最大の武器

—社会関係資本—

顧客との長い信頼関係、地域との深いつながり、取引先との助け合い、小回り・即決力、誠実さに基づく信用…等々

これらは数字に表れないが、サステナビリティ時代には「目に見えない豊かな資本」(非財務資本)として企業経営に生きる。

まとめ：日本の未来はどこから動くか

—地域と中小企業から—

日本は課題大国である。

だからこそ、イノベーションの可能性も大きい。

「小さな困りごと」から生まれる新産業。

サステナビリティは、日本再生のための「制約」ではなく「チャンス」である。